

2050 年頃 40 代子ども 2 人夫婦は、朝タブレット端末にきた情報をチェックし、地域の課題について意見を発信。子どもは学校に行き、祖父母も学校で教えたり、企業や市民の交流の場として機能している。いろいろな人が交流でき、意見を言え、未来について考えることで持続可能な茅ヶ崎になる。

未来像実現を阻む障壁・問題

市民自治 市民参加			行政	個別の問題
「市政」に対する感心	市に意見を出す メリットが感じられない	参加したくない人	予算がない。 ←ほんとうの 行革ができて いない。	行政 総計と他の計画 の連関を市民に 理解を
市民自治を 市民も行政も 理解していない。	民と公の 交流機会の 少なさ	「市」の やっていることが 分からない	「必要なもの…」 何が、いつ頃、 必要なのか(な るのか)わからな い(私は)	事業を 最小化する 判断力
市民が 主体的に 関わる流れ	「交流」した 結果、その先が イメージできない	既成団体の あり方 新しい活動団体 との連けい	P・D・C・Aが 実行されて いない。	本当に 必要なものを どうやって 見極めるか
「市民のもつ ノウハウ…」 ・どうしたら参加で きるか不明 ・何が求められて いるか不明 ・勇気がない(私)	「市民力活用…」 市民が参加する ライン、ルートが よくわからない (他人のことのよ うに感じている)	行政と市民 「協働…」 ・行政のカベが高い (高くみえる) 双方向コミュニケー ション不足	行政 「総計」の毎年の 成果と反省の 明確化。	計画だおれ
	「今まで通り…」 今がどういう状 況・状態か市民 一人ひとりが知 らない、理解でき ていない		行政 ・総計の成果指 標の改善 ・総計の実現の ための組織とヒト づくりの見直し	空き家の 維持管理
			行政 ・市の職員の方々 が総計と自部局の 計画の連関をわか りやすく、かつ、実 行しやすくする。	社会状況
			今の時代に即し た組織になっ ていない。	若者の雇用状況
			行、市民、企業 …協働 行政の中の部門 を越えた連携 実現。	市民の働き方 (仕事)に対する 意識
			「異」の意見 に対する受入 (職員)	若いヒトの教育 ハードより、ソフトの 充実 市Ⓐの経済、社会 の情報共有と改善 の提案…
				タブレットの配布 使用方法
				MY畑 をどう作るか
				タブレットの利用 スキル
				“茅産”の 認知度向上
				シニアが 学校で授業する 制度がない
				茅産の 継承
				保育園・ 学童保育 長期休暇対策
				学校の開放 管理

障壁・問題の解決策

障壁・問題					解決策						
市民自治 市民参加	市政に対する 市民の意識	市民への 市からの アプローチ	参加の メリットが わからない	参加の 結果が イメージできない	参加結果の 見える化 (本当の姿)	教育 (小さいころから 市政にかかわっ ていることを 知る)	広報 (様々な手段、 人づて)				
行政	計画だおれ	異なった意見 をうけ入れない 職員	オープンに しない	市民のための PDCAが ない	総合計画を 策定しない。 個別計画で。	市民と双方向 コミュニケーション する職員 (過程の議論)	行政の 組織改革 (もっと連携)	マイナス点 課題の 公開	議会の 完全 ボランティア	成果主義 (管理職試験) 年功序列 終身雇用	廃止
社会状況	若い人の教育 ハード重視	若者の雇用	茅産の 衰退 (後継者問題)		ITリテラシー (ソフト)教育 (経済・ 社会状況)	一次産業の 充実 茅産の継承					
個別の 問題											

我々は元々「未来像」の中で、朝、タブレット端末で来た情報をチェックして、地域の課題に対して自分が発信したり、色々な人と交流しながら意見を言えて、未来に対して考えることで「持続可能な茅ヶ崎」をつくっていく、といった未来像を考えています。何が一番問題か、大きくは二つのことについて話をしたいと思います。個別の問題はさておき、大きく言うと「市民自治」「市民参加」ということです。自分たちがどうしたら地域の課題などについて理解し、参加していくことができるのか、ということと、行政はどのようなあり方であればいいのだろうか、という二つのことに関して考えました。

まず「市民参加」においては、皆さんのように市民参加の企画に参加されている方は違うかもしれませんが、市の情報、市政に関する情報はなかなか耳にも入ってこないし、アンテナにも引っ掛からないという人が多いのではないかと思います。では何故、市民の意識がそこまでいかないかというと、そういったところに参加しても自分の意見は反映されないのではないかと、参加することによって、結果的にメリットはあるのか、といった点に疑問があるからではないかと思いました。もう一つ「市の方からのアプローチ」という意味では、本当に市の方が市民に参加して欲しいという意思を持って発信出来ているのかどうか、ということが一方であるのではないかと思いました。

「市民参加」におけるそういった問題に対しては、まず、市民参加企画の結果について、良いことだけを発信するのではなく、こういったことが上手くいきませんでしたといったことも情報として見える化し、本当の姿が見えるようにするとよいと思います。もう一つは「教育」ということで、中高生の方々を対象にしたワークショップも開催されていると思いますが、中学校の授業の中でそういった企画を必ずやっていると良いのではないのでしょうか。今、茅ヶ崎市ではこんなことが課題になっている、それに対して自分たちで提案していく、といったような課題解決ワークショップのようなものを必ずやっていったり、もっともっと広報活動も頑張る必要がある、といったことが「市民参加」についての解決策です。

「行政」については、何が問題かと考えると、そもそも総合計画の冊子が分厚すぎて重すぎるということです。作っただけで計画倒れになってしまうといったことがあるのではないのでしょうか。市民のためのPDCAというものが回っていないのではないかとということです。異なった意見を受け入れない職員がいるという意見がグループの方からも結構出ていたのですが、こういったことをやりますと決めてから市民に公表するので、反対意見があっても計画と違うから受け入れられません、といった形のコミュニケーションがとても多いといった話もありました。それに対しての解決策として、総合計画はもう策定しないということを考えました。個別の分野別にも、細かく法律に基づいて計画が立てられているので、総合計画はむしろ、その方向性を指し示すような簡素なものでよいのではないかという話です。もう一つは「市民との双方向のコミュニケーションをする職員」が増えてくるとよいということです。つまり、このようにできました、という結果を示すのではなく、こう考えているところですがどう思いますかといったように、家庭の議論を市民に示し、意見を先に取り入れながら実際に結論付けていくといったようなコミュニケーションです。あとは、よく言われる「行政の組織改革」ということで、縦割りの状況の中で連携をしと言われながらも、どちらがボール、主導権を持っているかはっきりしない、といったところを、今の時代に合った組織に変えていく必要があるということです。あとは、「マイナス点の課題の公開」、今課題になっていることというのをもっと表に出していくということです。鋭い意見としては「議会は完全にボランティア化」すればよいのではないかとということです。議員さんも市民参加型で誰でも参加できる形にするという意見がありました。また「成果主義」ということで払っていけばよいのではないかと意見も出ました。

個別な話に関しては、そこまで出来なかったのですが「未来像」の中のタブレットを使うという意味では、ただ端末を配るのではなくて、どう活用していけるようになるかというソフト面での教育であったり、持続可能な未来をつくるということでは、一次産業が衰退してきていて「茅産」の衰退というのが目立ってきているということもあるので、そこを充実させる必要があるということです。どう解決していくかまでは議論が出来ませんでしたが、一次産業の衰退、後継者問題等に関しては、市民全員が関わりながらやっていくことが必要なのではないかという話になりました。

未来像（未来の茅ヶ崎市でのショートストーリー）

22 世紀の茅ヶ崎シニアの 1 日

朝 5：00 自宅の I C T 情報をチェック

AM シャトルバスで海岸まで（北から南へ）

正午 ふれあい食堂では知り合いの店でお金を使う→人が動くことでお金と知識が循環！→せまい道を安心しててくてく歩いて行く（一方通行）。

PM 民家でシニアが子供に伝える→シニアは稼ぎ子供は学ぶ→子供を持つ親が引っ越してくる！

夜 快樂食堂で勉強（I C T 情報）→シニアのスキルUP

寝る 翌日の情報をチェック

毎日楽しい。（平日）大人が うろうろしている街 交流する

未来像実現を阻む障壁・問題

人	人材の確保 （市内の）	集客 （他市）	多世代の交流	人と自転車	防犯	ICTへの 対応	健康 長寿		
もの	空家の利活用	インフラ整備 の計画 （長期的に）	狭あいな道路	景観	複雑な交通 （駅近）	電柱地中化	歩道空間の確保	ICTへの 対応	駐車場がない
金	財源								

障壁・問題の解決策

障壁・問題	解決策
財源の確保	・株式会社茅ヶ崎・路上パーキング ・シニアが活躍・ベンチャーサポート
集客	・イベントの量産
人材の確保	・語ってもらえるようなまちづくり

若者代表としての視点から発表したいと思います。「未来像実現を阻む障壁・問題」として、「人・もの・金」の三つから考えました。大きくは「人」は人材や集客、多世代の交流などを考え「もの」はインフラ系や、自転車や歩道の空間の確保を考えました。「お金」は財源について考えました。

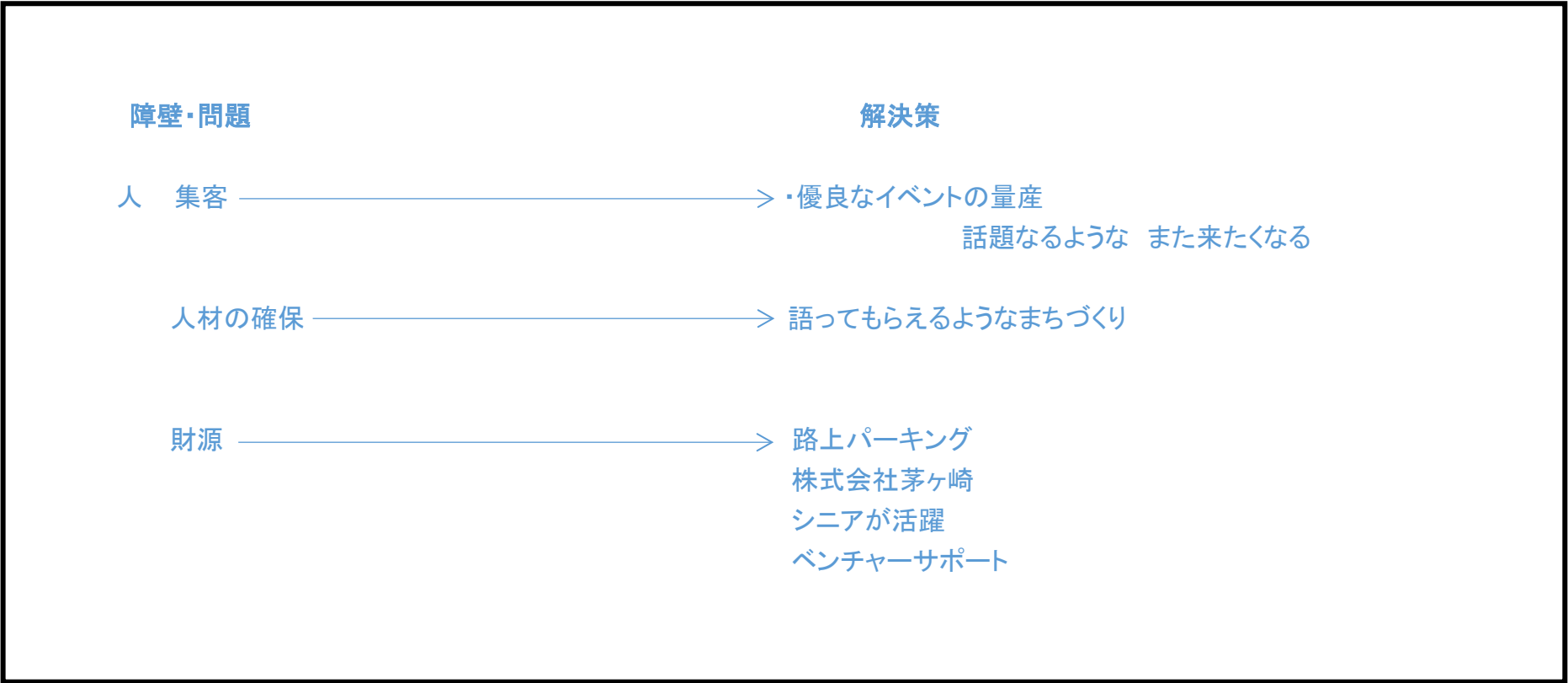
「障壁・問題」の解決策として「財源の確保」というところでは、お金は天下の回りものとしてお金の循環を大切にしていこうと考え「株式会社茅ヶ崎」は、市民を株主と考えてお金を食欲に稼いでいこうというアイデアです。その一例として、路上パーキング、海外にあるような路上に駐車できるものをつくり、1回千円などで、1時間の利用だと割高だが、1日の利用なら得だと思わせ、1日中茅ヶ崎にいてもらう作戦です。「シニアが活躍」というのは、ふれあい食堂でシニアに活躍してもらい、ボランティア精神でお金を稼いでもらい、税金を潤して欲しいという願いです。ベンチャーサポートは、今は学生でも起業する人が増えてきていますので、大学と茅ヶ崎市が連携して茅ヶ崎で起業するメリットをアピールしたり、サポートしたりできたらよいのではと考えました。

「集客」では、イベントの量産ということを考えています。今年10月にはサザンオールスターズの楽曲と花火が融合したイベントがありますが、ツイッターで情報が拡散されていて、行きたいと評判になっています。そういったものがあると、皆茅ヶ崎に来たくなったり、魅力に気付いてくれると思う。そういった理由から、イベントの量産してはどうかと考えました。

「人材の確保」としては、茅ヶ崎市にはプロ野球の山本昌さん、宇宙飛行士の野口聡一さんなど、すごい方たちがいるので、そういった人たちに、お金で雇うのではなく、ボランティアとしてお話を聞かせてもらえる場をつくるようなまちづくりを目指したいと思いました。

この三つが、Bグループで前回考えた未来像、つまり「将来の投資」や「人生100年への備え」、「茅ヶ崎のインフラ整備」を行うことで古きよき茅ヶ崎を残していく、ということを目指していくための障壁の解決策だと思います。

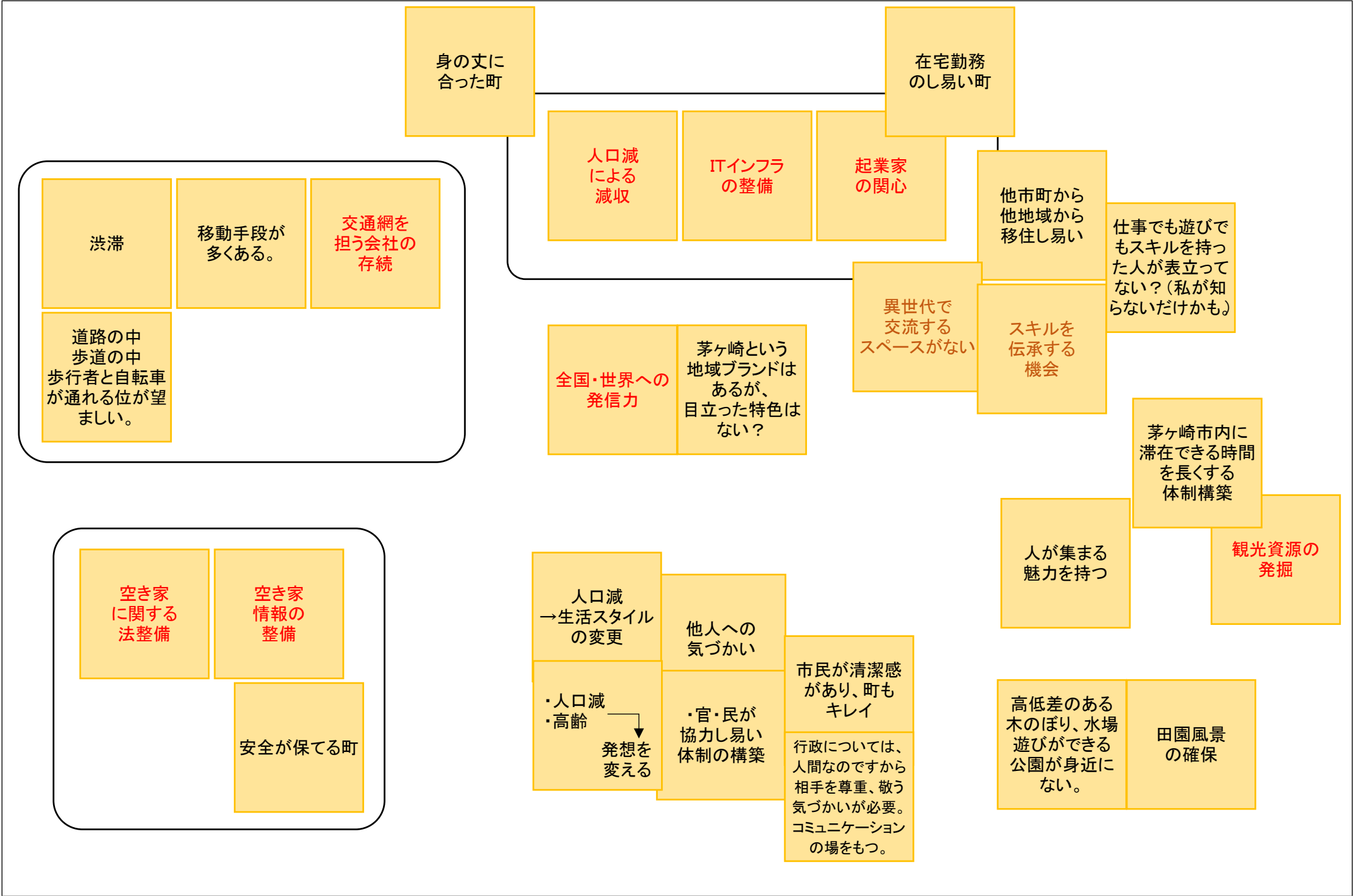
※ホワイトボード結果



未来像（未来の茅ヶ崎市でのショートストーリー）

茅ヶ崎には異世代交流できる空間がある。
そこは研修・教育の場で、高齢者は遊び方や教育を若い者へ伝え、働き手の世代では各地から人材が集まり成功スキルの伝承が行われている。
各地から人が集まる理由は、海・山・キャンプ場など自然豊かで、夜の遊び場があるからだ。
多世代が輝ける土壌があるので、まちには、「茅ヶ崎スマイル」があふれている。
一方、まちのインフラでは道路・交通機関網が整備され、また、ディスパーザー等ごみが少なくなる仕組みが取り入れられ、「茅ヶ崎スマイル」を促進している。

未来像実現を阻む障壁・問題



障壁・問題の解決策

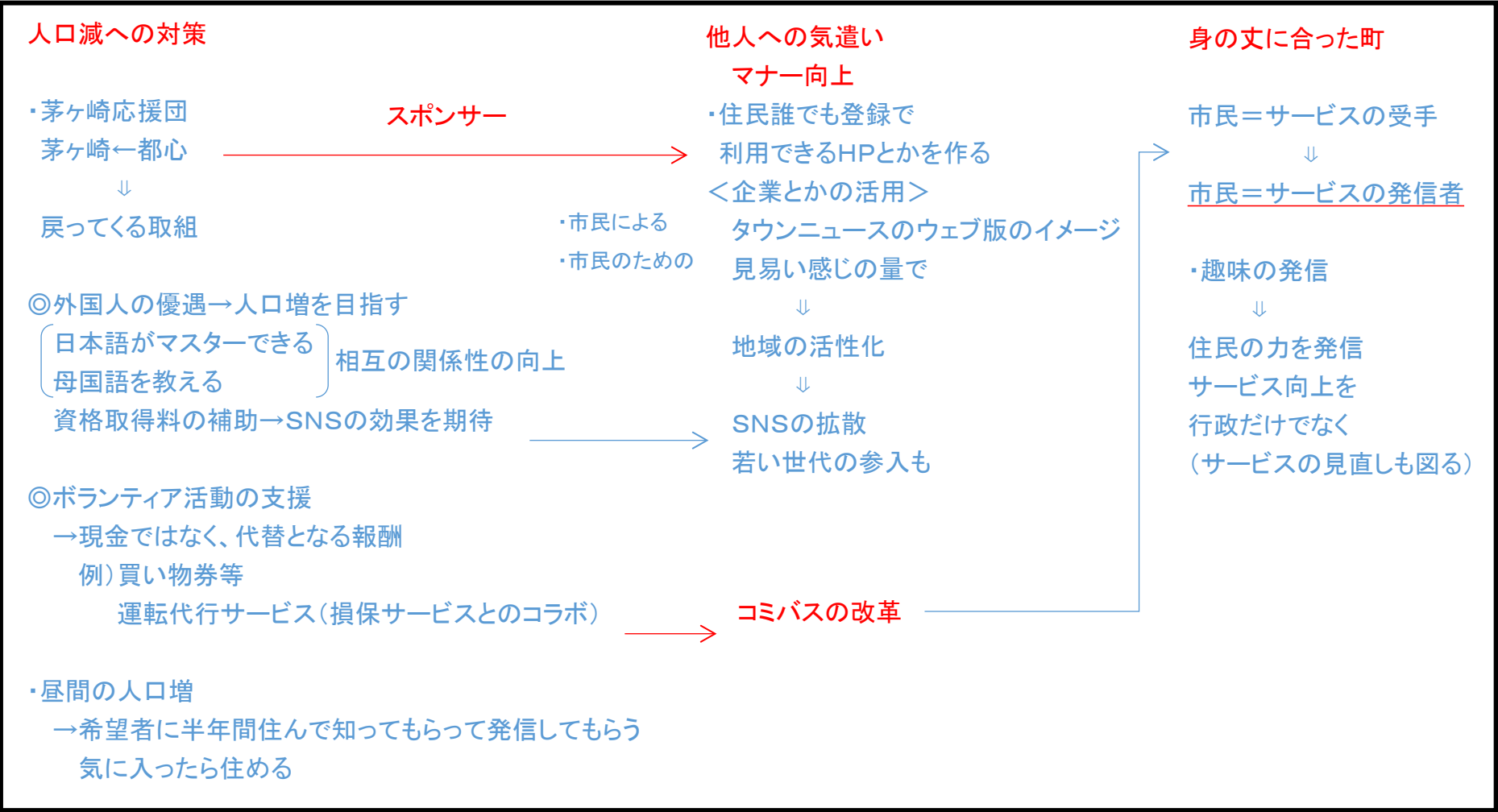
障壁・問題	解決策
人口減への対策	・茅ヶ崎応援団を作り、都心から戻ってこれるしくみを作る。 ・外国人への優遇。地域住民と外国人との相互利益のしくみを作る。 ・ボランティア活動支援と昼間の人口増への取り組み。
他人への気遣い・マナーの向上	・住民誰でも登録、利用できるHP等を作成し、様々な分野でスポンサーを募り、地域から情報発信し、お互いで理解し合える関係性を作る。
身の丈に合った町づくり (財源・収入の減少を考慮した取組)	・住民からのサービス発信。行政だけのサービス提供を見直し、住民の力を表現できる体制を構築し、茅ヶ崎市に見合ったサービスを提供する。

私たちは「未来像」の中で「茅ヶ崎スマイル」というキーワードにしました。笑顔が素敵な茅ヶ崎というのが根本にあって、セカンドライフ、セカンドチャンス、第二の人生を茅ヶ崎でもう一回掴んでいこう、ということを前回まで議論していました。そういった未来像を目指すにあたって、障壁や問題は多々ありましたが、三つぐらいに厳選しますと、一つは人口減です。茅ヶ崎は平成32年をピークに減少傾向に転じると言われています。この問題は、茅ヶ崎だけではなく、日本全国で起きていて、東京都でも多摩地域はもう人口減に転じています。ここでよく議論になるのは、隣の平塚や寒川、藤沢から人口を持ってくるにはどうしたらよいかということです。子どもの医療費の助成で、藤沢よりも優遇したら茅ヶ崎に来るのではないかなどといった議論もありますが、正直、隣の自治体と競争してもあまり意味がないと私は思っています。一つの処方箋としては、人口減は、これから数十年は仕方ない、それを前提にどうしたらよいのかといった現実的な見方が大事だと思っています。それが、三つ目の「身の丈にあったまちづくり」につながるのですが、そういった議論をしました。もう一つは、外国人を本当に受け入れていこうということです。ただ、これは我々が思っている以上に生半可な覚悟では難しい問題だと思っています、それなりの覚悟と仕組みが必要だと思っています。「人口減への対策」として、少し戻りますが、茅ヶ崎の応援団を作っていこうと思います。茅ヶ崎で生まれて茅ヶ崎で学んで茅ヶ崎で育った方が、都心に出てビジネスで成功していたりします。先ほども茅ヶ崎市出身のプロ野球選手も話題に出ていましたが、そういった方々を応援団にして、もっと茅ヶ崎に脚光を集めていこうと思っています。これは私のアイデアですが、そういった方々を副市長などに迎えて、茅ヶ崎に帰ってきて欲しい、茅ヶ崎で茅ヶ崎のためにビジネスをやって欲しい、といったことを訴えてもいいのではないかと思います。それから、外国人の方々をもっと沢山呼び込んで、働き手、住み手を増やしていくということも手段としてはあるのではないかと思います。

あとは、二つ目の「他人への気遣い・マナーの向上」ですが、色々なことをやるにしても、隣近所の顔が見えない、会話をしたことがないということがあって、どんな取り組みをやるにしても、そこを突破できないと困るといった話がありました。色々議論をしたのですが、一つの解として「市民の、市民による、市民のためのウェブサイト」を立ち上げたらよいのではないかというアイデアがあります。皆さんホームページを日常的にご覧になっていると思いますが、市のホームページ、企業のホームページ、サークルのホームページなど色々ありますが、それぞれを見なくてはなりません。そうではなく、茅ヶ崎市民がいつでも見たくなるようなウェブサイトを立ち上げるといったことを提案したいと思います。そのためには、一般社団法人等を立ち上げて、基本的にはボランティア参加型で、市民の人が市民のために手作りで作っていくということです。例えば趣味の世界でも、私はこんなことが出来ます、こんな人を探しています、といった情報をどんどんアップして頂くようなサイトを立ち上げたらどうかと思います。今は小学校からプログラミングを教えていると聞いているので、小学生、中学生にも参加してもらってよいと思います。自分たちのまちをウェブサイトを通じて作っていこうということに子どもたちも巻き込んでいくということです。運営費に関しては、茅ヶ崎出身の起業家の方たちにスポンサーになっていただき、お金を出してもらうことを考えています。せめて、茅ヶ崎に帰って来なくても、茅ヶ崎のためにお金を少し協力してください、あなたの会社の広告も出します、といった形で資金を調達してやっていくという形もあるのではないかと思います。それから、ボランティアの話も出てきましたが、皆さん異論もあるかもしれませんが、ボランティアというと無償だという概念もあると思います。でも、海外では日本と違ってちゃんとお金を貰っています。私のボランティアの定義は、本来ビジネスだったら1万円もらうところを、ボランティアなので千円で結構です、というのが本当のボランティアなのではないかと思います。これからボランティアの力をもっと市民の中から拡大していくために、例えば高齢者のお手伝いをした時に、千円、二千元といったお金ではなく、茅ヶ崎コインというような地域通貨などをもらえて、それが茅ヶ崎市内のお店だけで使えるというように、人のために役に立つことをしたら、地元で何か買えるコイン、地域通貨がもらえるといった循環をつくるのも1つの手段かと考えました。

それから、一番下の項目は意外な言葉かもしれませんが、何と言っても人口減の時代ですので、茅ヶ崎市の市税収入の40数パーセントが市民税だと思いますが、これは当然今後減っていくと思います。稼ぐ力がつかなければ減っていきます。一つの案として「身の丈に合ったまちづくり」をしていきませんかという提案です。業界関係者の方がいらっしゃったら大変恐縮ですが、私が常々思っていることなのですが、コンビニエンスストアは本当に24時間必要でしょうか。私はそうは思いません。夜遅くまで開いていて朝早くから開いているのは良いことですが、本当に24時間やっている必要があるのか、いつも疑問に思っていました。夜は夜でしっかり休んだらよいのではないかと思います。これは一つの例ですが「身の丈にあったまちづくり」というのをこれから日本全体でやっていかないと、とてもじゃないですが疲弊する人が沢山出てきてよくないと思います。最初の東京オリンピックでは高度経済成長で勢いよく走っていきました。人口が増えて、企業が沢山お金を稼ぎました。次の東京オリンピックは2回目です。そろそろこの辺りで日本人は生き方を変えた方がいいのではないかと思っていて、身の丈にあった無理をしないようなまちづくりを茅ヶ崎からやっていったらよいのではないかと考えています。

※ホワイトボード結果



未来像（未来の茅ヶ崎市でのショートストーリー）

私の10年後は75才。今日は海を見ながらc a f eで朝食。えぼし岩を写真にとりインスタに投稿。みんな「いいね！」を押してくれる。

これからスポーツジムで身体を調整。健康長寿でいるために運動は欠かせない。

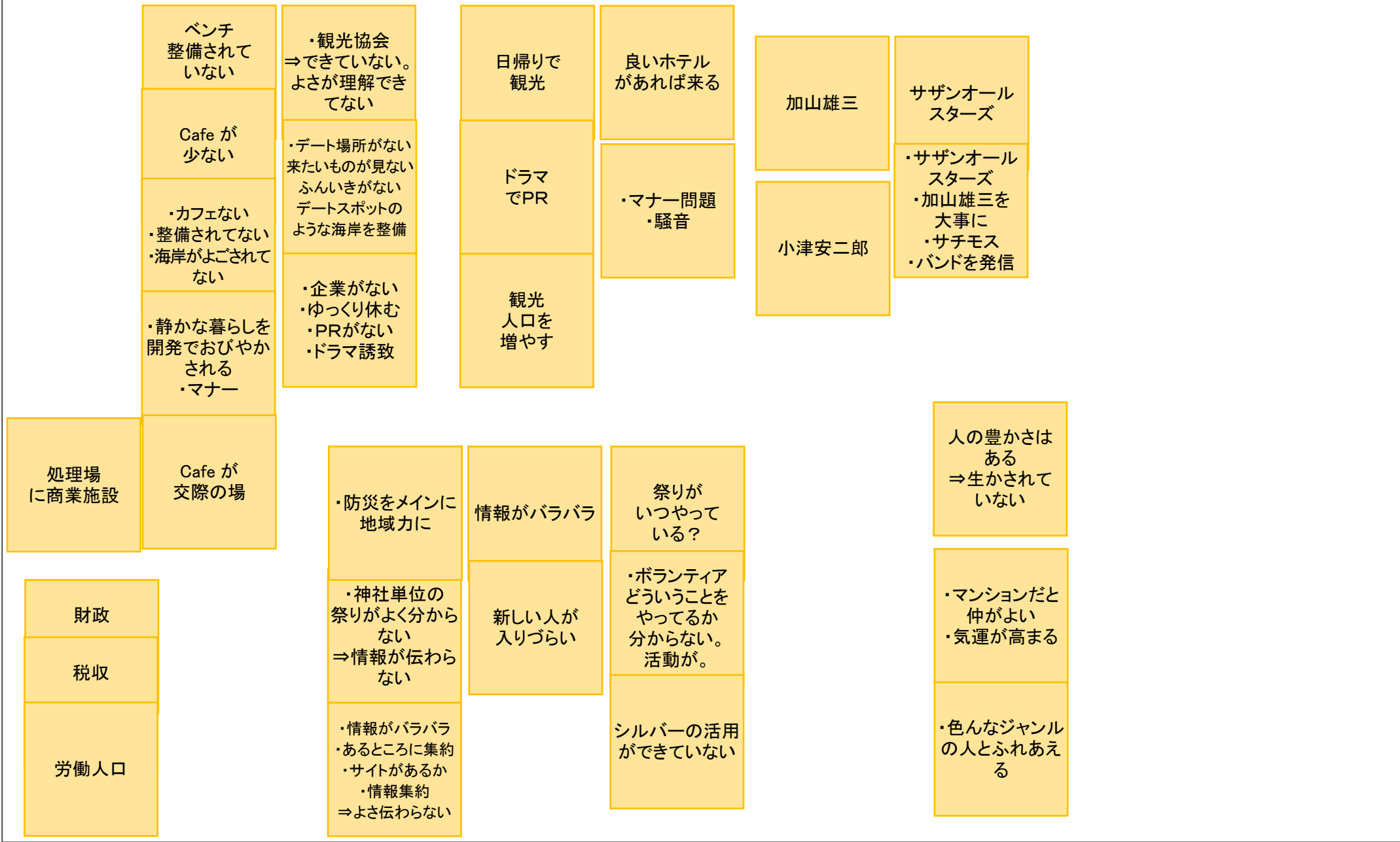
午後は、小・中学生に学習のボランティア。勉強だけでなく、昔遊びや読みきかせもおこなっている。

明日は、茅ヶ崎のまち歩きだ。らちえん通りを中心に文化を感じるツアーだ。そこには、シニアだけでなく子育てママもやってくる。茅ヶ崎のあんなこと、こんなことを話す情報交換の場だ。

最近、茅ヶ崎に住みはじめた人が参加することも多くなってきました。

もうすぐ浜降祭。担ぎ手にならないかと声をかけ、地域の伝統文化を知ってもらい、たくさんの人に参加してもらうことで、コミュニティを充実させていきたいと思う今日この頃だ。

未来像実現を阻む障壁・問題



障壁・問題の解決策

障壁・問題			解決策				
公園が活用されていない	観光(デート)スポットがない	観光資源をPRできていない	・野球場、公園の再開発を民間に ・お金を地域におとしてもらう仕組みを ・茅ヶ崎異人館、カフェ	海岸線の有効活用			
情報発信	情報が集約されていない	・地域の情報が分からない (ボランティア、市民団体の活動、シルバーの活用)	リンクを貼る <u>市のHPから</u> ハブになる	項目を増やすのではなく 見やすさを重視	地域のページを作る		
	防災情報が乏しい		詳細な情報 ↓ 対話を増やす	・ラジオ 防災	ITを活用して 発信	・意識付け ・イベント(防災、yahoo-Google 等と) 連けい↓ 防災、観光等	観光と防災を リンク

Dグループでは、前回考えたショートストーリーを見ながら、何が課題なのか考えていきました。前回、まず「海を見ながらカフェで朝食」とありますが、そもそも海を見ながらカフェで朝食をとれる場所、環境が無いのではないのでしょうか。「写真をインスタに投稿」といった時に、情報発信を個人がして、きちんと「いいね」を押してもらえる、茅ヶ崎の良さを知ってもらえるような環境がないのではないかと考えます。また「健康長寿でいるために」と言っても、健康長寿とはどうやったら出来るのかや、ボランティアに関する情報は、現役世代の30代、40代になると、シニアの世代とギャップがあるのではないかと思います。「昔遊びや読み聞かせ」なども行われているのかどうかも分かっていなかったり、まち歩きや情報交換の場に住み始めた人が参加できていないとか、地域の伝統文化等でも、住まれている方は知っていても、県外から来た方は分かっていないのではないかと、といったことが最初の話になっています。

そして「未来像実現を阻む障壁・問題」の話の中で、今Bグループでも話があったような財政や税金についての話も出てきました。財政や税金の問題をどのように解決していくかとなった時に、観光や茅ヶ崎の良さである自然と環境のよさということ、文化人、加山雄三、小津安二郎、サザンオールスターズ、こういったところがきちんと使われていないのではないかと、思います。観光でも、周辺には藤沢市だと江ノ島がありますが、茅ヶ崎市にはデートスポット的なところがなかったりと、色々な資源が整理されていないといったこともあるのかと思います。「防災の問題」でも、防災の情報があまり整理されておらず、情報はあるのだけれど分からない、といったことがあるのではないかと話し合われました。

そういった中で、解決策として3点出てきました。まず「障壁・問題」として「公園の活用」「観光スポット」「観光資源がPRできていない」といったことがあります。それを解決するためには、例えば、柳島のスポーツ公園もありますが、野球場もあってきちんと野球場として使われていなかったり、野球場としか使われていなくて、周りが有効活用できていないとなってくると、1つに集約するような1つの組織を地域で作っていくということも1つあるのではないかと思います。なので、柳島をスポーツの拠点としていく、それ以外の地域は違う拠点として作っていくというのも一つあるのではないかとということです。

もう一つは「海岸線の有効活用」で、茅ヶ崎は自然、海があるところがとても強みだと思っています。その海岸線をもっと有効活用することで、茅ヶ崎に日帰りや宿泊してもらえるような観光が必要なのではないかと思います。少し前に、Aikoさんのイベントがあった時に、ビジネスホテルが一軒しかなくて、そこが満室だったと聞いています。そういったことをできるだけ海岸線沿いのエリアで解決できればよいのではないかとということが挙げられました。

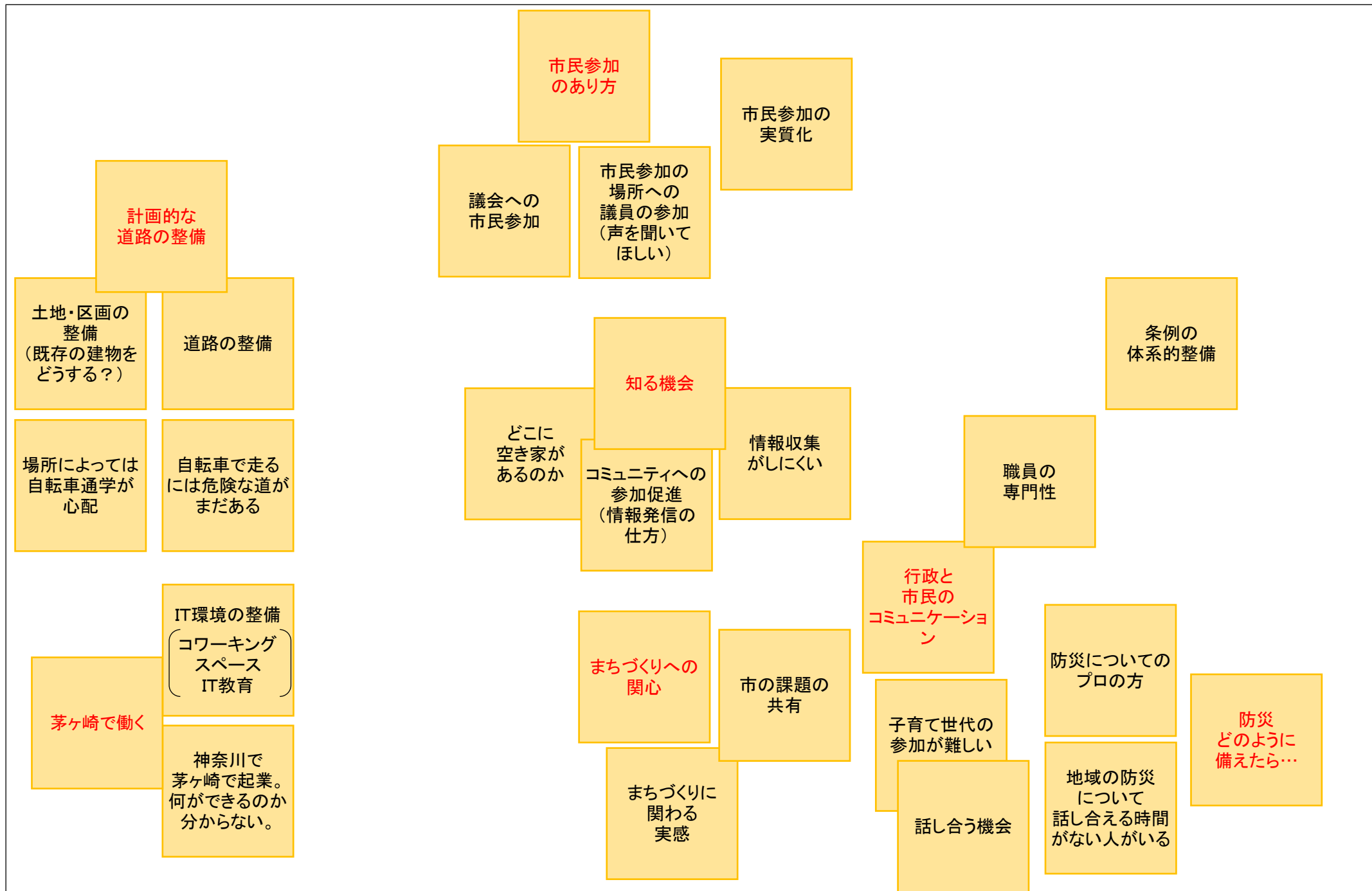
「情報発信」では、情報があまり集約されていないことがあるような気がします。私は3年前に茅ヶ崎に引っ越してきたという背景があり、茅ヶ崎の情報がほとんどわからないまま、引っ越してきたということがあります。そういった時に、市のホームページをハブにして、そこから色々な情報がリンクされているようにするなど、一つの茅ヶ崎の情報を力として、色々なWebの検索に掛かるような仕組みがあるとよいのではないかと思います。

最後に「防災情報」ですが、防災情報が乏しいと思います。海岸沿いに住まれている方だと、標高のデータがないと、津波でここが沈んだらどうなるかはハザードマップでわかりますが、想定範囲といわれると、想定が正しいのか中々分からないので、詳細な情報が欲しいです。例えば、標高データなどで、なんとなくという想定範囲ではなくて、自分で実際に、標高データ等が分かるが大事ではないのでしょうか。災害時は、ピンポイントで情報が知ることができるラジオの情報が必要なのではないかとということも挙げられました。実は、茅ヶ崎市には市の防災ラジオがあるらしいのですが、そのPRがあまり出来ていないように思います。ITの活用、今はマイクでエコーがかかっている、殆ど情報が分かりません。そういったところでもっとITが活用できないかと思います。最後に「観光と防災」ですが、防災情報だけであれば普段使われないのでなかなか難しいと思いますが、それと観光を結びつけることで、一つのマップというかGIS的な使われ方ができればよいのではないかとということが話されました。

未来像（未来の茅ヶ崎市でのショートストーリー）

- ・おじいちゃんは朝早くから、おばあちゃんは近所の空き家に集まる友人達と農業を教えている。
- ・お兄ちゃんは片道2時間通勤の父を見て、茅ヶ崎市を活性化する為、誰でもかつやくできる会社を茅ヶ崎で起業したいと考えている。
- ・お母さんとおばあちゃんは、おじいちゃんの農園で採れた野菜で昼ごはんを作っている。
- ・お姉ちゃんは、安心して整備された道路で自転車通学をしている。
- ・ボクと弟は、近所のみどり豊かな公園で虫捕りをしている。
- ・午後はお母さんが地域の人々で防災について話をしている。

未来像実現を阻む障壁・問題



障壁・問題の解決策

障壁・問題	解決策
情報を知る機会	・テーマを絞った話合いの場 ・市の情報発信方法の工夫 ・こどもが知れる機会（例：こども用の冊子）
市民参加のあり方	・気軽に参加できる場 若者も！ ・市民の意見が反映されている実感
どこに空屋があるのか？	・場所が知れる ・マッチング
コミュニケーション	・「困ってる」と「助けられるよ！」のマッチング（例）市民の掲示板 etc.

前回、Eグループは「3世代のショートストーリー」という考えでしたが、今回は「障壁・問題」ということで、そもそもショートストーリーの話の前段になるかとも思いますが、情報をどうやって知るか、どのようにやり取りしていくかというところに課題があるのではないかという話になっています。

1つは「情報をまず知る機会」です。今回Eグループに、茅ヶ崎市の色々なことは知らずに参加したのですが、グループの中に条例などにとっても詳しい方がいらっやって、とても勉強になりました。そういった情報が市のホームページ等でもっと気軽に見ることができたらいいのではないかと感じました。今回、大きい茅ヶ崎市全体の枠組みとなってくると、中々時間もなくて調べるのも難しいので、もう少しテーマを絞って話し合いする場があるといいと思います。私は今回、子どもがいて無理やり親に預けて参加しているのですが、やはり、子どもがいらっしやる方はこういう場には参加しづらかったりするので、子どものいる方がこのような場に参加できる機会があるとよいのではないかと思います。

「市民参加のあり方」では、我々市民ももっと積極的に参加をしなければいけないと、今回自分自身が感じました。ただ、このようなかしこまった場というのは中々参加しづらいので、もう少し気軽に職員の方と意見交換できる場があるとよいのではないかと思います。また、出した意見に対しても反映されている箇所が分かりやすくなると、もう少し皆さんの参加意欲も高まるのではないかと思います。

次からは少し具体的なことになりますが、ショートストーリーの中で「空き家を活用する」という話が出ていましたが、そもそも空き家がどれくらいどこにあるのかがわからないので、市のホームページ等から見られるようになればよいと思いました。他の市区町村ですと、市のホームページ上で空き家が見られたり、中古でどれぐらいの価格で売り出しているなど見られたりするところもあるので、そういった情報があるとよいというのと、その場所をどのように有効活用できるかなど、市民の方が気軽にアイデアを出せるような仕組みになるといいかと思いました。空き家の問題だけではなく、茅ヶ崎市の中でこういうことが困っている、ああいうことに困っているという方が沢山いらっしやると思いますが、それを解決できる方も沢山いらっしやるはずです。それが表には全く出てこないということもあるので、その辺りのマッチングを市の方でやっていただけるとよいと思います。例えば、サイト上でこういうことに困っている人がいます、というのがあって、私が助けられますといったような挙手性で、同じ市民の中で助け合いができるとよいと思いました。細かくは色々出ているのですが、情報という切り口で、こういったところが障壁になっている気がするので、この辺りが課題解決していけたら利益になるかと考えました。

※ホワイトボード結果

課題	解決策(アイデア)
・防災 どのように対策？	・エリアごとの対策
・安心して歩ける道路	・お年寄でも安心して歩ける道路 時間を区切って使う
・職・住近接	・在宅ワークなど市の仕事ができたら ・IT企業誘致 ・障がいのある方も働きやすい社会